学校法人東放学園 東放学園音響専門学校 殿

東放学園音響専門学校学校関係者評価委員会

2024(令和 6)年度 学校関係者評価報告書

1. 学校関係者評価委員

[学校運営に関する有識者](委員長)

| 佐久間 義彦 | 学校法人東放学園 元理事 | |
|--------|--------------------------|--|
| | 東放学園専門学校、東放学園音響専門学校、元校長 | |
| | 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 顧問 | |
| | 一般社団法人 全国放送派遣協会 顧問 前専務理事 | |

〔就職先の企業および業界関係者〕

| 田山 順一 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 常務理事 |
|---------------------------------|
|---------------------------------|

[高校の教員]

| 片桐 慶久 | 東京都立向丘高等学校 主幹教諭 |
|-------|-----------------|
|-------|-----------------|

[卒業生]

| 髙橋 堅太 | Be-U 株式会社 代表取締役 CEO 〈音響技術科 卒業〉 |
|-------|-----------------------------------|
|-------|-----------------------------------|

2. 事務局

〔学校教職員〕

| 酒井 努 | 東放学園音響専門学校 | 校長 |
|---------|------------|---------------|
| 和田 一夫 | 同 | 教務教育部 部長 |
| 小山内 宙 | 同 | 学務管理部 部長(事務局) |
| 佐野 僚 | 同 | 音響芸術科 学科主任 |
| 勅使川原 美鈴 | 同 | 学務管理部(事務局補佐) |

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

①2024年7月22日(月)18:00~19:30 ②2024年10月22日(火)18:00~19:30

東放学園音響専門学校 清水橋校舎 2階2S1教室 東放学園音響専門学校 清水橋校舎 2階2S1教室

4. 学校関係者評価結果

評定基準

| 4 | 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。 |
|---|---|
| 3 | ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。 |
| 2 | 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。 |
| 1 | 全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。 |

「2023年度 東放学園音響専門学校 自己評価報告書」に基づき審議、検討し、以下の通り報告する。

I. 重点目標について

| 【ドロップアウト率低減のための対策強化】 | |
|--|----|
| コメント | 評定 |
| ・ドロップアウトの原因のひとつに学科、コース、学校の錯誤があるのなら学園のスケールメリットを活かし、初期の指導として転校、コース・学科変更ができる仕組みを検討しては。 ・辞めないようにする方法を考えることよりも、より魅力的になる方法を率先して考えていく方がよいと思う。そのためにはその先にある業界そのものが魅力的でなければならないので一緒に考えていきたい。 ・高校でも、入学時・長期休業明け・大きな行事終了時など、特に注意をして長期欠席や退学の防止に努めている。できるだけ学生や保護者に寄り添い、入学者全員が卒業できるよう、取組んでほしい。 ・ドロップアウトの原因は日々変動していくため、細かい把握のために様々なコミュニケーションの場を活用するとよい。 | 4 |

| 【新しい教育改革への取組み】 | |
|---|----|
| コメント | 評定 |
| ・教職員を対象にテーマを決め討議・討論などでコミュニケーション力を養う研修会や合宿を開催して、資質の向上を図っては。 ・最近の若者はスマホ、タブレットが中心でパソコンを使いこなせない方も多いと聞く。より便利で簡易なものに移行していくのはわかるが進化とは古いものを捨て去って次に進むわけではない。パソコン、メールの発達により、リアルに会って面と向かって意見を交わし合い、お互いの微妙な思いを汲み取れる機会もなく、コミュニケーションをとることが苦手であるという若者を放っておくべきではないと思う。 ・オンデマンドによる反転授業の質の向上と、効率性が大事だと思う。 ・日々変化していく環境の中で教育者の対応範囲や幅広いしくみづくりが常に必要になってくると思う。業界への興味の持ち方、生き方の多様性も様々だと思うので随時多方面との意見交換を重ね、ブラッシュアップが必要。 | က |

Ⅱ. 各評価項目について

基準1 教育理念・目的・人材育成像

| コメント | 評定 |
|--|----|
| ・技術・知識も必要だが、元気がある、挨拶ができるなどの根本的な素養を引き続き育成していく必要がある。 ・学生の将来を見据え、様々な取組みをされていることはとてもよいと思う。ただ一方でまだ 10 代のうちから将来を限定するのではなく、自分自身が知らない可能性を持っていると知らしめることも必要。 ・学習内容や就職活動を説明し、教育方針を保護者に周知することはとても大事だと思う。 ・専門学校にとって就職内定は一番大事だが、「2 年間東放学園に通うことで人間形成上どのような人物を育てていくのか」というディプロマポリシーを学校案内や保護者向け資料にどう記載していくか検討してもよい。 ・インターンシップに関する具体的な記述があり、重点目標の一つであることがわかった。あとは定着していくための実施と、その上で第一線に立つ学生の目標や未来の自分の姿について、より精度の高いイメージが持てるようサポートしていきたいと思う。 | 4 |

基準2 学校運営

| コメント | 評定 |
|--|----|
| ・学校ごとに特色が見出だせるキャッチフレーズについて引き続き検討してほしい。 ・学生だけではなく、指導者側の成長を促進される方針は素晴らしいと思う。 ・こちらはゴールではないと思うので、変革し続けることに期待します。 | 4 |

基準3 教育活動

| コメント | 評定 |
|--|----|
| ・現在の中学高校生は「知識・表現・意欲」の 3 つ観点で評価されてきたので、多角的な評価が今後必要になる。 ・教育内容の中での、各資格・免許取得は自己理解や自信にもつながると思うのでそこへの興味づけはとても重要。 ・様々な状況やタイプの学生がいる中で全体をカバーすることは難しいと思うが、自己表現の場を積極的に提供できる取組みがあってもよいと思う。 | 3 |

基準4 学修成果

| 委員コメント | 評定 |
|--|----|
| ・きちんと連携が取れ成果もあげられていると思う。 ・キャリアサポートセンターを中心とした就職活動支援、全国平均を意識した資格取得指導など、具体的な取組みが記載されてあり、よいと思う。 ・業界のそれぞれの企業の体制や求めることも日々変化していると思うので、そこへのアクセスと把握により、学生と企業のハブになり就職してからの継続率につながると思う。引き続き密な連携が大事。 | 4 |

基準5 学生支援

| コメント | 評定 |
|---|----|
| ・学生支援は多岐に渡っているが、年度毎に重点課題を決めて実施。例えば今年は「留学生相談体制」をやるなど検討しては。 ・きちんとした体制の中、運営できているように思う。ただ、就職のことだけを考える学生生活や、就職のための学びになるのではなく、将来仕事になり得る内容そのものに楽しみや、やりがい、達成感を感じさせることも重要であるように思う。 ・繊細かつ難度の高い項目だと思いますが各課題に対して細分化した対策・対応が見られると思うので、引き続き丁寧な実施によって改善していくと感じる。 | 4 |

基準6 教育環境

| コメント | 評定 |
|---|----|
| ・近年、自然災害が多発している。学園としてその対策を検討しては。 ・学外実習、インターンシップなどに関しては特に視野や経験値を養える要素だと思うのでとてもよいと思う。また、学校施設内の学習環境は時代に合ったアップデートをされており素晴らしいと思う。 ・コミュニケーションの場をどこまで拡充できるかは様々あると思うが、現状の設備内での定期的なレイアウト変更など、できることから学生と一緒に環境づくりに取組むのもよいかと思う。 | 4 |

基準7 学生の募集と受入れ

| コメント | 評定 |
|---|----|
| ・キャッチコピー(パンフ等)は"エンタメ・イチバン"など判りやすいものがよい。 ・入学の時点で先のことを限定しすぎている気がする。将来、漠然とエンタテインメントに関わる仕事に就きたいと思っている方は多いと思うが、狭い範囲での選択を入学の時点で決め込まなくてはならない現体制は見直しする時期にあるのではないかと思う。 ・ホームページの学校案内はとてもわかりやすく内容が濃く感じるが、冊子の学校案内は、まだ改善の余地があると思う。冊子の学校案内は読み返すものなので、高校生も保護者もじっくり読み返すほどの情報量や魅力が必要である。 ・人口減少の中で、可能な対策(幅広い学生獲得)がされていると思う。グローバルな人材確保と後の輩出へつながる取組みが今後のポイントのひとつになると思う。 | 3 |

基準8 財務

| コメント | 評定 |
|--|----|
| ・卒業生、業界とのつながりをより深めていくために「寄付金」事業を新たに考えている。 学園が 50 周年ということもあり、同窓会組織主体で検討を進めていきたい。 | 4 |

基準9 法令等の順守

| コメント | 評定 |
|--|----|
| ・適正に運営していると思う。・どうしても人が運営するものなので、引き続きの細かなチェックや全体の共通意識を高水準に維持していくことが大切。 | 4 |

基準10 社会貢献·地域貢献

| コメント | 評定 |
|--|----|
| ・ボランティア活動を科目(選択)化、単位化しては。 ・簡易的な音響機材やオペレーターを必要とするイベントは多いと思うので、地域的な社会貢献に期待している。 ・内容はとても素晴らしいと思う。あとはいかに地域との交流の深さや、課題解決に協力ができるかの歩み寄りができる地域から実施していくことで得られるものと生み出せるものがあると思う。 ・地域貢献において、エンタメの力はとても相性がよいので学生のアイデアや行動力で新しい形の価値提供も可能だと思う。 | 3 |

Ⅲ. 所感

コメント

- •TOHO 会(同窓会組織)は学園にとって重要な存在。特に地方、地域の集まりには新任の教職員の参加が望ましい。
- ・入学の時点で音響、照明、映像等など専門を決めなくてはならないのが気になる。業界の仕事として何がどういった形で存在するかもわからない中で将来の重要な選択を高校生のタイミングで強いるのは厳しい気がする。
- ・音楽がますます盛んになり、音楽産業へのニーズがさらに高まり、東放学園の卒業生が活躍していくことに期待 します。
- ・日々、目まぐるしく変化している世の中でエンタメ業界の今後の在り方や日本のエンタメの状況にも対応していく人材を生んでいく重要な場所のひとつとして専門学校があると思う。その中でこういった会議でそれぞれの目線で多角的に学校、学生、業界、社会を考え続けていくことで東放学園の存在価値も上がっていくと思う。

以上